

NHO NEW WAVE

vol.45 2021 Autumn

独立行政法人
国立病院機構
National Hospital Organization

初期研修医・専攻医のためのコミュニケーション情報誌
NHO ニューウェーブ

発行：独立行政法人 国立病院機構 令和3年 秋号



SPECIAL スペシャルWEB座談会

NHO “COVID-19 研修事業”

NHOネットワークだからこそできる、各地域の実情に合わせた
with コロナ時代の正しい感染症対策へ



PROGRAM

#1 初期研修プログラムの紹介

国立病院機構 水戸医療センター

#2 外科 専門研修プログラムの紹介

国立病院機構 名古屋医療センター

HOSPITAL

国立病院機構 岩国医療センター

診療部長 久山 彰一

循環器内科/オンライン診療担当 田中屋 真智子



スペシャルWEB座談会

NHO “COVID-19 研修事業”

『COVID-19 研修事業』の目的

NHOの知見と知識を広く地域へ還元する

進行：NHO本部審議役 岡田千春 (以降、進行：岡田) …まずは長谷川先生(名古屋医療センター 院長)にNHO『COVID-19研修事業』の概要と目的などについてお聞きしたいと思います。

名古屋医療センター 院長 長谷川好規 (以降、長谷川) …NHOグループではCOVID-19の診療や感染症対策にワンチームとしていち早く取り組み、全国各地で非常に重要な役割を果たしてきました。

『COVID-19研修事業』は、NHOグループがこれまでCOVID-19への対応で蓄積してきた知見や技術を、各地域の医療機関やCOVID-19診療に関わる人たち、地域住民など、広く世のなかに還元し、適切な感染防止対策の実現を目指すものです。

COVID-19に対するNHOのこれまでの取り組みは国からも高く評価されており、国の強い要請もあって『COVID-19研修事業』がスタートしました。

進行：岡田… NHOに蓄積されたCOVID-19の知見や知識を還元していくために、どのような事業展開をお考えでしょうか。

長谷川…各地域の実情に合わせて、他の医療機関、訪問看護ステーション、介護施設・障害福祉事業所、地域包括支援センター、さらに自治体・救急・消防・警察、そして地域住民などに対して、NHOの知見や知識をどのように共有していくのかは大きなテーマです。

事業展開として大きく考えているのが、Webを活用した「e-ラーニング」や「動画コンテンツ」、市民公開講座のWeb版をイメージした「オンラインセミナー」などのコンテンツをNHOで整備し、全国でいるんな方々が利用できるような汎用性のある質の高い教育資料の提供です。

さらに、私たち自らが地域に出向き、集合研修や出張講座を実施したり、個別に施設を訪問して感染症

対策を支援をするなど、それぞれの地域、施設の実情に合わせた実践的な講義や感染症対策の研修・教育プログラムを提供していきたいと考えています。

また、『COVID-19研修事業』を展開していくことは、感染症対策におけるNHO全体の知識と技術のレベルアップにも大きく貢献するものだと思います。

感染症対策で重要なこと

感染症対策の前進には、正しい情報の共有が不可欠

進行：岡田…谷口先生(三重病院 院長)には、今後のCOVID-19や新興感染症対策におけるポイントなどについてお聞きしたいと思います。

三重病院 院長 谷口清州 (以降、谷口)…私たちはこれまでもCOVID-19感染症対策の講習会などを地域で実施してきましたが、そこで感じたことは感染症に関する正確な情報を全ての人々と共有できなければ、感染症対策は上手くいかないということです。

COVID-19発生当初はさまざまな情報が錯綜し、日本社会に混乱を招きました。現在わかっているエビデンスベースのはっきりした正しい

情報や、わかっていないこともしっかり共有することで、初めて有効な議論ができ、感染症対策が前に進むのです。現在は、これまで対峙していた従来株と性質の異なるデルタ株が広がっていますが、アップデートされた正しい情報をみんなで共有していかないと、今後、有効な感染症対策は進んでいかないと、思います。

また、入院患者さんへの面会制限や面会禁止など、各病院によって対応が変わってくると思いますが、そういったこともみんなで共有しながら議論ができると、より最善、最適な感染症対策に結びついていくのではと感じています。



名古屋医療センター
院長

長谷川 好規



九州医療センター
院長

森田 茂樹



熊本医療センター
院長

高橋 毅



三重病院
院長

谷口 清州

NHOネットワークだからこそできる、各地域の実情に合わせた with コロナ時代の正しい感染症対策へ

NHO『COVID-19研修事業』とは、NHOグループの全国各病院で蓄積されたCOVID-19感染症に関する知見・経験などを活かし、地域の医療機関などと連携しながら、各地域の実情に合わせたウィズコロナ時代の正しい感染症対策に係わる研修、教育を実施していくものです。今号の特集では、このプロジェクトを牽引する先生方を繋いでWeb対談を開催し、NHO『COVID-19研修事業』の目的や意義などについてお話を伺いました。

進行：岡田…これまで地域で講習会などを実施してこられて、地域からの要望や声にはどんなものがありましたか。

谷口… NHOとしての感染症対策のガイドラインをつかってほしいという声があります。みなさん、現在行っている感染症対策が正しいのかどう

か、最善なものなのか、また、今後、新興感染症などが起きたときにどうすればいいのかなど、迷ったり悩んだりしているような状態が続いています。感染症対策の具体的で質の高い教育コンテンツをきちんとつくって、広く共有していくことが大切です、今回の『COVID-19研修事業』における重要な役割であると感じています。



研修アプローチについて

全ての人々が、正しい情報を正しく理解するために

進行：岡田…高橋先生（熊本医療センター 院長）には、『COVID-19研修事業』をどのようにして地域や住民にアプローチしていくのか、その方法などについてお聞きしたいと思います。

熊本医療センター 院長 高橋毅（以降、高橋）…毎日、テレビは感染症関連のあふれんばかりの情報が流され、残念ながら誤った知識や無闇に不安を煽る情報も多々あります。それに惑わされないような正しい情報提供、正しい教育をいかに

わかりやすく提供していくのが大切です。

現在、高齢者にはワクチンがほぼ行き渡り、高齢者の感染や老健施設、介護施設などでのクラスターは抑えられてきていますが、引き続き高齢者に向けた啓発やクラスター対策をしておく必要は当然ありますし、現在、感染者数が増加している10代から40代の方々に感染症対策の正確な知識をもていただくための有効なアプローチや教育をいかに提供していくのが課題です。

そのためには、私たちが学校や職

場に直接出向いて、出張講座を実施したり、あるいはNHOがつくったe-ラーニングをみていただいたり、それ以外の人々にも広く行き渡るようチラシやポスターなどを作成して配布するなど、全ての人々が正しい感染症対策を理解できるように、わかりやすく情報を伝えていくことが大切です。

NHOの職員であれば、ある程度の医学的知識をもっていますし、感染症の勉強会も実施しているため、地域に出向いて老人会や子供会などで充分、講演や研修ができると思っています。

進行：岡田…医学的な知識のない一般住民の方々に正確な情報をわかりやすく伝えるためにはどのような工夫が必要でしょうか。

高橋…あえて私はCOVID-19研修ではなく、“コロナ研修”という言い方をしていますが、医学知識がない方々に正確な情報をきちんと伝え、理解していただくためには、たとえば専門用語、英語、聞きなれないカタカナ語の羅列を使わないような、わかりやすい言葉で説明をする必要があります。小、中学生などにはイラストやマンガを使用するなどした配慮も必要でしょう。また、障がいのある方々にもわかるような、字幕スーパーや点字に対応したのも準備しなければならないですし、外国人の方々にもわかるよう、外国語による解説も必要だと思っています。

※この記事は2021年7月末に取材をしたものです。



進行

国立病院機構
審議役

岡田 千春

目的

国立病院機構において、広く**地域**の医療機関等の関係者と連携し、
地域の実情に応じた新型コロナウイルス感染症対応に係る研修を実施するもの。

■ 対象は「地域」の様々な機関・住民



スペシャルWEB座談会

NHO “COVID-19 研修事業”

クラスター経験で得た知見

常に想定外に備えた、 クライシスマネジメントが重要

進行：岡田…森田先生（九州医療センター 院長）には実際にCOVID-19 クラスターを経験したことで得た知見などについてお聞きしたいと思います。

九州医療センター 院長 森田茂樹（以降、森田）…最初のクラスターは入院患者さんのPCR検査が一般的ではなかった時期に起きました。血液内科の病棟で4人部屋の患者さんに発熱があり、最初は状況的に合併症によるものだと思っていましたがCOVID-19感染による発熱であり、同部屋の入院患者さんに広まってしまいました。さらに患者さんを個室に移し、ネーザルハイフロー（高流量酸素療法）をする際に、今度は処置を行っていた看護師さんに感染してしまいました。

次のクラスターはPCR検査を入院患者さん全員に実施していた状況でしたが、入院時に陰性だった患者さんが数日後に発熱し、PCR検査の結果、陽性と判明しました。精神科病棟の患者さんであったため、患者さん自身で行う感染対策が難しい状況もありクラスターが起きてしまいました。

当院は感染症指定病院として、こ

れまで最大限の感染症対策を講じてきましたが、万全だと思っていた対策は決して万全ではなかったのです。実際にクラスターを経験して感じたことは、厚生労働省から派遣されてきたクラスター班の方々の第三者の客観的な目によってクラスター発生の詳細なメカニズムがわかるなど、感染症対策は外部の目が有効であるということ。そして、常に想定外の事態が起こったときにどう対応すべきかというクライシスマネジメントが非常に重要であることを痛感しました。

進行：岡田…クライシスマネジメントにおいて大切なことは何だとお考えでしょうか。

森田…1回目のクラスターが発生した際、フォローアップの検査をすると想定外の陽性の患者さんが出てしまいました。当院では収容しきれず、しかもそれが夕方の時刻であったため、受け入れ先を探すのが非常に難しい危機的な状況でした。その際、最も有効で大きな助けとなったのが、リアルタイムに地域の感染症患者さんの入院数や受け入れ状況などがわかる情報共有システム

でした。それによって、受け入れられる施設が直ぐに見つかり、顔が見える関係だったため電話でお願いをして患者さんを迅速に移動させることができました。

クライシスマネジメントで大切なのは情報共有であり、『COVID-19

研修事業』は、まさに情報共有を実現していくパワフルなプロジェクトです。クライシスマネジメントにおいて有効で便利な地域の各医療機関の状況がリアルタイムにわかる情報共有システムの普及促進にも非常に有効であると思っています。

NHOネットワークの強み

全国ネットワークのNHO だからこそできるプロジェクト

進行：岡田… NHOでは全国の各病院がワンチームとして協力する体制が構築されており、COVID-19の流行初期から患者さんの受け入れや、医師、看護師の派遣、PCR検査やワクチン接種など、さまざまな取り組みを全国各地でいち早く行ってきました。

そのときどきに最適な正しい感染症対策を実施していくためには、NHOの全国各病院が蓄積してきたCOVID-19の知見や知識を各地域に上手く落とし込んで、正確な情報や知識を共有していくことが大切です。『COVID-19研修事業』で期待されていることだと感じています。

高橋…そうですね。みなさんが仰るように、『COVID-19研修事業』では、一人でも多くの国民に感染症の正確な情報、知識を伝えることが最も大切なことであり、期待されていることだと思います。正確な情報、知識の共有がなければ、正しく有効な感染症対策はできません。NHOの各病院、職員全員がこの事業を成し遂げなければならないと思っています。

長谷川…NHOが『COVID-19研修事業』を行う大きなアドバンテージは、急性期からセーフティネット分

野の医療まで、さまざまな形態の医療機関が全国各地で活躍しており、それぞれがCOVID-19感染症の治療や感染症対策の経験を積み、豊富な知見とノウハウをもっているということです。それをしっかり有効活用して、身近なところから地域と一緒に感染症対策を考え、実施していくことが重要です。決して大きなイベントなどを開いてほしいのではなく、無理をせず、地域のなかで身近にできることから各病院、各職員が実施していただければと思っています。

谷口…『COVID-19研修事業』で改めて認識、実感したのは、NHOは全国組織の強固なネットワークであるということです。NHO以外にも全国にネットワークを持つ医療機関はあるのですが、NHOのように国内最大級のネットワークがワンチームとなって、同じ目的、目標に





名古屋医療センター 院長 長谷川 好規



九州医療センター 院長 森田 茂樹



熊本医療センター 院長 高橋 毅



三重病院 院長 谷口 清州



国立病院機構 審議役 岡田 千春(進行)

向かって活動するような事例はあまりみかけません。NHOグループの全国の各病院が、それぞれの地域の核となって、地域の実情に合わせた感染症対策を構築していく。NHOだからこぞできるプロジェクトだと感じています。

森田…『COVID-19研修事業』は、医療のルールをつくる人たちに対しても提言できるような活動になればと思っています。たとえば病棟での感染拡大を防ぐのに個室は有効ですが、現状のルールでは個室病棟をつくることにインセンティブは全くありません。ルールが変わることで、より有効な対策ができることもあります。

また、全国にあるNHOの各病院には、光るものをもっている医療人がたくさんいます。そういう方々が別の切り口によって新たな感染症対策をどんどん提案していただき、ネットワークによって全国に広めていくことも大事ですし、NHOの組織を超えた医療機関や医療人とも積

極的に手を組んで、もっと広いネットワークを構築していくことができればと思っています。

長谷川…そうですね。NHOの病院群が手を繋いで、みんなで新しい企画を提案していくなど、NHOのネットワークを活用することで本当にいろんなことができると思っています。

進行：岡田…国も、NHOのネットワークで蓄積された知見、知識が、地域の実情に沿った感染症対策に有効であると期待しているからこそ、我々の『COVID-19研修事業』を強く要請し、支援したのだと思います。ワクチン接種が進みCOVID-19感染症が抑えられても、今後やってくる新興感染症に備えた対策や危機管理は絶対に必要です。『COVID-19研修事業』を通して、NHOという全国地域のネットワークがどのように活動し、それが日本の医療にどのように貢献していくのか、一つの大きな試金石になるのではと思います。



森田…長谷川先生が仰ったように、今が新興感染症を学ぶ大きなチャンスなので、若い先生方には何らかの形でCOVID-19感染症対策にコミットしていただきたいですし、COVID-19によって得られたさまざまな記録を、今後の学習にしっかり活用してほしいと思います。

また、私自身、医師人生の多くを心臓外科医として過ごし、自分の技術、自分のチームだけを頼りに多くの手術を行ってきたのですが、今回のCOVID-19の診療に携わってきたことで、一人の医師、一つの病院ではできないことが多々あることを改めて痛感しました。COVID-19に積極的にコミットしていただき、他の医療機関や地域、行政と広く関り、医師としての広い視野を獲得してほしいと思います。

のネットワークを活用して国際プロジェクトを経験していただくなど、NHOには医師としての視野を広げることができる素晴らしい教育、研修環境があると感じています。

高橋…感染症に対するNHOのさまざまな取り組みで得た知見や知識は、今後、新人研修などにおける非常に重要なプログラムとなり、これからの医療において欠かせないものになるでしょう。

NHOがこれまで築き上げてきた、全国の強固なネットワークシステムだからこぞできることや、学べることは非常に多く、若い医師のみなさんにはNHOの強みである全国ネットワークを大いに活用し、これからの日本の医療を支える医師になってほしいと思います。

若手医師へのメッセージ

NHOのネットワークを活用し、広い視野をもった医師へ

進行：岡田…これからの日本の医療を支える医学生や若手医師へメッセージをお願いします。

長谷川…新興感染症のパンデミックは何年かのターンを置いて必ずやって来ます。この時期だけを過ぎれば終わるというものではなく、今後も必ず出現する新興感染症の危機に対して、どのようにマネジメントしていくかを学べるのは今が最大のチャンスであり、積極的に

COVID-19感染症対策に関わってほしいですね。

また、人に教えることは、自ら学び、成長することでもあります。『COVID-19研修事業』を通して、地域へ向けた研修、教育を実施していくことは、自らも学び、大きな成長にも繋がるはずで、若い医師のみなさんには積極的にこのプロジェクトに参加していただき、自らメッセージを伝える役割を担い、知識を高めていってほしいと思います。

谷口…医師としての視野を広げるのは、まさにNHOの全国ネットワークとしてできることです。NHOはネットワークを通して自由闊達な意見交換ができますし、国内留学もできます。COVID-19の感染拡大によって大阪で医療ひっ迫が起きたとき、全国のNHOの病院から看護師さんが派遣されましたが、派遣された看護師さん自身にとっても大きな学びを得たように、全国ネットワークの特性を活かすことで新たな知識やスキルをどんどん獲得できることはNHOの大きな魅力でしょう。

私は以前から国際的な医療活動などもしていますが、たとえばNHO

長谷川…そうですね。若い医師のみなさんが「〇〇の医療を勉強したい!」というときに、NHOのネットワークの各病院へどんどんオファーをし、積極的に学びに行ってもらいましょう。自分は同じNHOグループなのでしっかり保障され、安心して勉強に行くことができます。日本全国にあるNHOネットワークのなかで、若い医師のみなさんが学びたい医療のある病院へ行くなどして、どんどん交流を広げてほしいなと思います。

※この記事は2021年7月末取材をしたものです。

PROGRAM

#1 初期研修プログラムの紹介

国立病院機構 水戸医療センター

3次救急、ドクターヘリによる急性期から慢性期・緩和ケアまで幅広く経験できる

水戸医療センター 循環器病センター長 / 教育研修部長 小泉 智三

水戸医療センターの初期臨床研修について——

水戸医療センターは3次救急を担うドクターヘリの基地病院、茨城県基幹災害拠点病院、地域がん診療連携拠点病院であり、33科の診療科と病床数500床を有し、日本の3大疾病である、がん・脳血管疾患・心臓病などの専門医療および、救命救急センターを中心として茨城県中央地域の医療の向上に貢献しています。

3次救急やドクターヘリの同乗など時間を争う救急医療から、患者さん、ご家族とじっくり向き合う時間を共有することの大切さを学べる慢性疾患診療や緩和ケア、さらに手術

支援ロボット「ダヴィンチ」や「3テスラMRI」など、最新医療機器を用いての高度医療まで経験することができます。症例がバラエティに富んでおり、内科系、外科系をバランスよく研修できるため、研修医のみなさんが経験すべき common disease の多くを学ぶことができる研修環境です。

医局が全科同じフロアで診療科間の垣根はなく、職種間のコミュニケーションも活発であり、病院全体で未来の医療を担う医師を育てる教育体制であることも特徴です。

プログラムの特徴について——

研修プログラムは将来を見据えた

選択制と自由度の高さが特徴です。内科、外科とも多くの専門医、指導医を擁しており、それでいて、それほど多くの研修医が在籍しておりませんので、1つの科を1~3人の研修医に割り当て、多くの経験を積めるようにプログラムを組んでおります。したがって、初期研修医の段階から、サブスペシャリティにむけてモチベーションを高められるEarly Exposure、アウトカム基盤型教育が展開され、次のステップへの連続性を感じられるよう配慮しております。

また、鼻出血の診方、外傷の対応など各科医長によるミニ講義や、近隣の研修病院との合同で鑑別道場など、座学での勉強の機会も豊富に用意しています。

読者へのメッセージ——

現代は情報過多社会であり、AIも医学の分野に登場し、最新の医療機器の中で若手医師には多くの勉強が必要な時代です。その様な状況であっても、古典的ではあれ、どの診療科においても“問診”を大事にして、患者さんの希望をしっかり汲み取り、適格な診断と安全で最善の治療ができる能力を習得してほしいと思っています。

当院は水戸市郊外の広大で長閑な土地にあり、医療に集中できる環境にあります。ぜひ見学に来てください。



PROFILE

出身地 : 茨城県
出身大学 : 山口大学 (1993年卒)
宝物 : 健康
座右の銘 : 七転び八起き



国立病院機構 水戸医療センター

所在地 〒311-3193 茨城県東茨城郡茨城町桜の郷280
WEB <http://www.hosp.go.jp/~mito-mc/>

病床数 **500**床 診療科数 **33**科

水戸医療センターの特徴

当院は、明治43年に水戸陸軍衛戍病院として創設された100年以上の歴史がある病院です。戦前より若手医師の育成に貢献しています。現在は、地域がん診療連携拠点病院、3次救急を担うドクターヘリの基地病院、茨城県基幹災害拠点病院でもあり、地域の中核病院として、その役割を担っています。



VOICE × 初期研修医

幅広い領域を学べる研修環境 研修生活の快適さも魅力です

初期研修医 1年目 浦勇 春佳

先生方は教えることに手間を惜しまず、気軽に質問ができ、経験したい処置の希望を伝えれば「やってみる？」と声をかけていただけますし、急性期だけではなくケアマネジャーさんとも関りながら転院調整も経験できるなど、地域に根差した医療も学べます。院内も寮もキレイで、研修生活の快適さも魅力です。



PROFILE

出身地 : 東京都
出身大学 : 産業医科大学 (2020年卒)
宝物 : 縁
座右の銘 : 美徳は人生の道しるべ

どんな人にも合う研修病院 雰囲気の良いさも大きな魅力です

初期研修医 1年目 金澤 拓真

当院は若手医師が多く、医局もオープンスペースで、科に関係なく先生方と気軽に話ができる雰囲気が魅力です。研修では自分のやりたい医療をさせてもらえますし、内科系も外科系も揃っているため、進路に迷っている人や自分のペースで研修がしたい人など、どんな人にも合う病院だと感じています。



PROFILE

出身地 : 茨城県
出身大学 : 秋田大学 (2020年卒)
宝物 : 家族
座右の銘 : 雨降って地固まる

丁寧なフィードバックなど 学びの充実度が高い研修環境です

初期研修医 1年目 高瀬 千尋

3次救急であるため重症、外傷の患者さんを診ることができ、ドクターヘリも経験できます。メジャーな内科は全て揃っており外科の手術実績も豊富で、多彩な症例を学ぶことができます。どの科の先生も質問しやすく、丁寧なフィードバックもしっかりあり、学びの充実度はもちろん、働きやすさも特徴です。

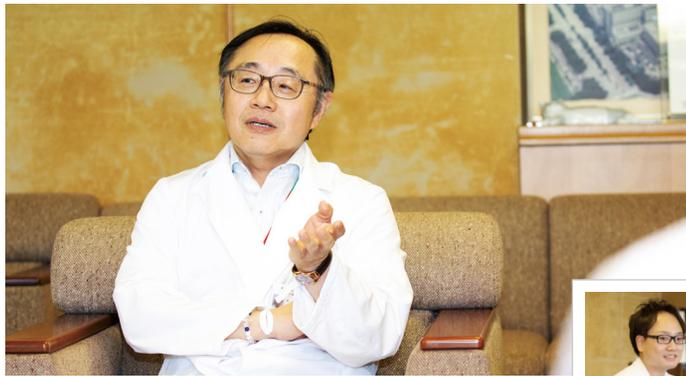


PROFILE

出身地 : 茨城県
出身大学 : 東京医科大学 (2020年卒)
宝物 : 思い出の写真
座右の銘 : 晴耕雨読

#2 外科 専門研修プログラムの紹介

国立病院機構 名古屋医療センター



どんな場所でも活躍できる ジェネラルな外科医に

名古屋医療センター 副院長
外科専門研修プログラム統括責任者 **竹田 伸**

名古屋医療センターの外科専門研修プログラムについて——

名古屋医療センターは救急（3次救急）、がん（地域がん診療連携拠点病院）、HIV（エイズ治療東海ブロック拠点病院）を3本柱とし、豊富な症例数に加え、研究や臨床試験を行う臨床研究センターが設置されているなど、高度医療、研究を経験・実践できることが特徴です。

外科としては、がん診療をはじめとする高度な専門手術を多く経験することができ、さらに地域密着型病院など各連携施設においてさまざまな症例を経験することで、多彩

で偏りのないジェネラルなスキルを確実に習得することができます。

また、基準とする技能を習得した専攻医には、サブスペシャリティ領域の専門医取得に向けた技能教育を開始する「専門医連動コース」や、大学院進学希望者には、臨床研修と平行して研究を開始する「大学院コース」があり、個々の目標に応じた研修が可能となっています。

名古屋医療センターの研修環境について——

経験できる症例数が豊富なのは当然として、当院では学会発表や論文執筆に関する機会も豊富にあり、

しかも地方学会より全国学会への参加が多いことが特徴です。カンファレンスや抄読会、勉強会も充実しており、手技力だけではなく、画像診断力、手術適応判断や安全で確実な術式がイメージできる能力、全身管理能力などもしっかり獲得することができ、幅広いステージで活躍できるジェネラルな外科医へと成長できる研修環境です。

また、女性外科医が半数近くを占めているなど、働きやすい環境であることも大きな特徴でしょう。

初期研修医のみなさんへ——

外科は、自分の診断やイメージした術式などの正否が手術によって直ぐにフィードバックできるという特性があり、手術を経験するほど、手技力だけではなく診断力など幅広い能力も習得できる診療科です。また、自分の得意とする領域や手技を極めていくこともできますし、全身管理もできる外科医は内科へのキャリアチェンジがしやすいなど、外科は進路に迷っている方にも最適な診療科です。

外科医を目指す方はもちろん、外科に少しでも興味のある方や進路に迷っている方も、ぜひ当院の外科専門研修で幅広い実力を獲得し、どんな場所でも活躍できるジェネラルな医師を目指してみませんか。



PROFILE

出身地 : 愛知県
出身大学 : 名古屋大学 (1982年卒)
宝物 : 経験した手術
座右の銘 : 努力は継続なり



国立病院機構 名古屋医療センター

所在地 〒460-0001
愛知県名古屋市中区三の丸4-1-1
WEB <http://www.nnh.go.jp/>

病床数 **656** 床 診療科数 **37** 科

名古屋医療センターの特徴

エイズ治療東海ブロック拠点病院および広域災害拠点病院の役割を担っています。病診連携、高度医療の実現に力を注ぐとともに、3次救急指定病院として急性期医療の強化をめざしており、毎月600台以上の救急車を積極的に受け入れています。

VOICE × 専攻医

臨床だけではなく学術面の研鑽も充実

外科（消化器外科・一般外科） **梅村 卓磨**



PROFILE

出身地 : 愛知県
出身大学 : 藤田医科大学 (2019年卒)
宝物 : 健康
座右の銘 : 学は及ばざるが如くするも、猶之を失わんことを恐る

当院の外科では、手技力はもちろん、適切な術式を考えたり、誤嚥性肺炎や尿路感染症など合併症を持つ高齢患者さんが多いため内科的管理も勉強できたり、緊急疾患では麻酔や集中治療、さらに栄養管理などジェネラルな能力を獲得することができます。臨床面だけではなく、全国学会で発表させていただくなど学術面も研鑽できますし、指導医の先生方は教育熱心で若手医師も多く、雰囲気も含め最高の外科研修の場であると感じています。

女性外科医が第一線で活躍できる環境

外科（消化器外科・一般外科） **木部 栞奈**



PROFILE

出身地 : 青森県
出身大学 : 名古屋大学 (2018年卒)
宝物 : 家族
座右の銘 : 楽しもうという求心があれば物事はどんな時も楽しめる

当院には初期研修からお世話になってます。当院の外科に進んだのは、女性医師が多く、子育てをしながらがん手術をこなすなど第一線で活躍している先生がいたことや、各診療科の先生方もフランクでコンサルがしやすいなど働きやすい環境だったからです。外科は緊急手術など仕事が不規則な部分もありますが、やりがいや充実度はとても大きいです。楽しい毎日を過ごしています。

国立病院機構 岩国医療センター



オンライン診療の有効活用と 離島・へき地への普及促進に向けて

岩国医療センター 診療部長 久山 彰一

当院は山口県岩国市を中心とした人口約40万人の医療圏において唯一の3次救命救急センターを有し、地域がん診療連携拠点病院として「がんゲノム医療」の実施や、NICUを完備した新生児重症救急にも対応する成育医療、さらに循環器疾患や脳卒中治療にも強い高度急性期医療を担う地域の中核病院

です。また、1976年には「へき地中核病院」に指定され、1978年から離島医療である「岩国市柱島診療所」へ診療援助を行うなど、長年にわたり離島・へき地医療に取り組んでいることも特徴です。離島医療は課題が多く、船で移動するため天候によって医師が派

遣できなかったり、医師不在時の診療提供の問題や、医師不足など医療資源が限られている状況のなか、たとえば循環器内科では緊急対応が必要となる場合も多く、医師派遣のローテーションをどうするのかなどの課題も挙がっていました。

そこで、このような状況を何とかしようと、前院長である谷本光音先生（現・名誉院長）の尽力などにより「岩国市柱島診療所」にオンライン診療が導入（2020年4月）されました。離島医療の課題解決への第一歩の試みとして、以前から行っている電話診療の補足や医師派遣による面談と併行しながら実施しています。

この試みは全国的にも注目されており、クラウド型電子カルテの互換性や特定環境による電波状況の問題など、離島・へき地におけるオンライン診療の課題改善、対策を繰り返しながら、オンライン診療の進むべき最適な方向性を明示し、普及促進のためのロールモデルになればと思っています。

※この記事は2021年7月末に取材をしたものです。



PROFILE

出身地 : 広島県
出身大学 : 藤田保健衛生大学 (1997年卒)
宝物 : 子どもたち
座右の銘 : 置かれた場所で咲きなさい



国立病院機構 岩国医療センター

所在地 〒740-8510
山口県岩国市愛宕町1-1-1
WEB <https://iwakuni.hosp.go.jp/>

病床数 **530** 床 診療科数 **32** 科

[診療科目]
内科、消化器内科、肝臓内科、呼吸器内科、循環器内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、神経内科、血液内科、精神科、小児科、小児循環器科、外科、消化器外科、乳腺外科、胸部外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、小児外科、皮膚科、泌尿器科、産科、婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、救急科、放射線科、麻酔科、病理診断科

オンライン診療の可能性を広げ、メリットを享受できる体制づくりへ

岩国医療センター 循環器内科医長 / オンライン診療担当 田中屋 真智子

離島・へき地におけるオンライン診療は、自宅で受診できるため通院に掛かる時間やアクセスの問題がなく、特定診療科の医師派遣と異なり、患者さんのニーズに合わせて各専門医による問診・視診が受けられるなどのメリットがあります。しかし、オンライン診療は月1回に限ってしか診療報酬が算定されないため以降の対面診療は点数が取れないことや、高齢者にはデジタルデバイスを扱うことが難しい問題など、現状はオンライン診療のメリットを享受できていない状況にあります。また、オンライン服薬指導や薬剤配送のインフラ整備も大きな課題でしょう。

都市部に集中して活用されつつあるオンライン診療ですが、当院の試みによって離島・へき地での課題を多角的に検証し、オンライン診療の可能性やメリットを最大限享受できる体制づくりを推し進め、離島・へき地に暮らす方々に少しでも安心を届けていきたいと思えます。



PROFILE

出身地 : 香川県
出身大学 : 東京医科歯科大学 (1994年卒)
宝物 : 子どもたち
座右の銘 : 努力は人を裏切らない

岩国医療センターのある街



岩国医療センターのある岩国市は、山口県の最東部に位置し、日本三名橋の一つに数えられている五連アーチ橋「錦帯橋」や岩国市内から瀬戸内海まで一望できる「岩国城」がある。他にも県屈指の高峰・寂地山にある「寂地峡」は「日本の名水」や「日本の滝百選」にも選定されており、大自然を満喫できる観光スポットである。



BACK NUMBER × バックナンバー
過去の「NHO NEW WAVE」が
WEBサイトから閲覧できます！

https://nho.hosp.go.jp/education/education_nho.html

NHO ニューウェーブ 検索



NHO

facebook & twitter

本部公式アカウントを開設しました！

facebook

<https://www.facebook.com/nho.headoffice>



twitter

https://twitter.com/nho_headoffice



本部のSNSで発信したい情報があれば広報係までご相談ください！